

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2772001539		
法人名	アライヴ株式会社		
事業所名	グループホームあいむ		
所在地	大阪市住吉区南住吉2丁目6番2号		
自己評価作成日	平成 30年 9月 2日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JkyosyoCd=2772001539-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 10月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で「ふつう」に暮らし続けることを目指して…。そんな自立支援型のグループホームとして、「認知症になって支援を受けても、自らで生き抜く幸せの場」として、それぞれの入居者に応じた生き抜く意欲を高める個別ケアを提供しています。また、共同生活という場の力を活用して入居者さん同士がお互いを支え合いながら、自分達の生活を過ごしていただいています。GH利用者さん方は勿論、通いの「共用型デイサービス」利用者さん方とも交わり仲良く過ごされています。「自分達の暮らし」を自分達で織りなしていることから生まれる、自然な笑顔に溢れる元気なグループホームです。また、「あいむ」内だけでなく、町に出ての生活、地域と交流しながらの生活を町内会の方々と手を携えて取り組んでおり、生活感溢れる豊かな暮らしを築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住街の一角にあるアライヴ株式会社が運営する3ユニットのホームです。スーパーマーケットや各種医療機関、公園などが徒歩圏内にあり、生活環境が整っているホームです。利用者と職員の一日は、公園での早朝ラジオ体操、近隣道路の清掃から始まります。昼食後は利用者数名だけでお買い物に出かけますが、この取り組みは利用者の意見を取り入れたものです。職員は何度も何度も検討を重ね、家族・地域の理解、リスクマネジメントと合わせてモニタリングしながら支援に繋がってきています。管理者・職員は「私達は、利用者一人ひとりが役割を持って自立した生活ができるような仕組み作りを心がけています。買い物や散歩後には玄関前の長椅子に座り、楽しい会話がはずんでいます。」と利用者が主体的に生きる支援をしています。代表者は「実際は利用者の方々に助けてもらっているんですよ。また地域との繋がりを大切にしており、地域の理解と協力を得ています」と、地域の資源として地域になくてはならないホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「グループホームあいむ」基本理念認知症になっても、「自分が生きていること」を実感しながら、能動的にその人らしい生活を継続していく。これが「あいむ=I'm(I am・・・)」の名称の由来であり、その実現のために「個々に寄り添うケア」を実践していきます。そして、グループホーム生活ならではの、共同生活者同士の同年代グループパワーを引き出し、社会生活を楽しみ充実した日々を送っていただく様努めます。また、地域のグループホームとして、お年寄りとそのご家族のために、人々のために、地域社会のために、健全で安らかな生活を提供し、老人福祉に貢献することを通じて、職員の幸福に繋がることを目指します。</p> <p>基本理念標語 :わたしも みんなも 一緒に楽しい生活 あいむの理念は、介護保険法の目的を十分に果たすための内容としており、そのために介護職員入社時には、介護保険法第1条、89条、69条を説明、解説を行っている。そして、グループホーム介護の基本をビデオ等を通じ研修した上で、グループホームあいむ運営方針を説明、日常様々な問題も理念に照らし合わせて判断できるように目指している。会議等では、理念を基本に懸案事項を掘り下げて話しあっており、全員で理念に沿った運営に取り組んでいる。</p>	<p>管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。『認知症になっても「自分が生きていること」を実感しながら、能動的にその人らしい生活を継続していく』を基本理念として「個々に寄り添うケア」を実践しています。「わたしも みんなも 一緒に楽しい生活」を基本理念標語にしてホーム内に掲示して、家族や来訪者に理解をしてもらえるようにしています。管理者は会議や研修、新人研修等において理念の重要性を説明し、職員が確認しあう機会を設けています。管理者、職員は理念を意識して日々の介護を実践し、達成に向けて取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>事業所は町会の会員となっており、毎月行われる町内清掃活動にも欠かさず参加して、馴染みの方もたくさんできています。毎朝のホーム近隣清掃活動や買い物の際には、近所の方々とご挨拶を交わしたり、見守っていただいたりと、地域の方々にもホームを身近な存在にさせていただいている。</p> <p>平成27年には、町内会の方々のご推挙により「美化活動感謝状」を区長よりいただきました。</p> <p>また、町内会の方々との消防訓練や災害時の協力についても相談し合うなど相互交流を図っている。</p> <p>最近では、地域の認知症高齢者が道に迷っていた際に、町内の方があいむへ連れて来られ一時保護、その後包括との連携を図ったケースもあり、地域の相談所となっている。</p>	<p>ホームは、町内会に加入しています。毎月行われる町内清掃活動には欠かさず参加をして、地域住民との交流が進んでいます。ホーム近隣の清掃活動は毎日行っており、町内会の推薦によって区長より「美化活動感謝状」をもらっています。感謝状はホーム内に掲示され、利用者の励みにもなっています。管理者は、地域貢献の一環として地域在住高齢者への相談や支援への取り組みを進めています。また他施設からの希望により職員が「出前研修」として出かけています。利用者が「認知症カフェ」に参加をしたりして地域との繋がりを大切にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居者の地域活動として、毎朝の町内清掃、買い出し、午後の自由外出を行っている。これらを通して、地域の方々に認知症の人の理解や接し方、暮らしぶりを知っていただく機会としている。昨年からは「共用型認知症デイサービス」の送迎の際などに、在宅利用者・家族の支援として、ご家庭での認知症介護の相談・アドバイスを行っている。また、区内訪問介護事業所職員への、認知症研修も定期的に行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、日頃の生活報告や実際の自立支援生活状況もご覧いただき意見を頂戴している。地域包括支援センター職員、町会長、地区民生委員と町内の方々の参加を得ており、地域連携の発展に役立っている。</p> <p>ご家族の参加は基より、年に2回程度は数名の利用者さん達にも参加いただき、委員の方々に直接に暮らしぶりを聞く機会を設けている。</p>	<p>運営推進会議は、開催規程に沿って2か月に1回、年6回定期的に開催しています。構成メンバーは地域包括支援センター職員、町内会会長、地区民生委員・児童委員、利用者家族代表、利用者、代表者、管理者等です。ホームから生活状況、身体拘束等適正化検討対策協議(身体拘束廃止委員会)、非常災害時への対応など丁寧に報告を行い、参加者から意見や要望を聞いて、ホームの運営やサービスの向上に活かしています。会議での提言から運営推進会議録や開催案内を家族に送付するようになりました。管理者は、会議を地域の理解と支援を得ることができ大切な機会ととらえています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの方とは、運営推進会議での情報交換のみならず、各種の催し等にも参加して話し合い、情報交換している。</p> <p>また、住吉区地域見守り支援システムの構築においては、区役所担当者と事業者連絡会の会合等で協力体制を敷き実現に至った。</p>	<p>区の担当者とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報や助言を得ています。管理者は住吉区事業者連絡会の施設部会等で「災害時に避難が必要な要支援住民の名簿作成」に協力するなどして、連携を密にしながら実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアについて理解しており、取り組んでいる。社内研修も実施している。 鍵をかけないケアをはじめとして利用者さんの自由を尊重。「普通の生活の継続」を実践している。これまで、利用者さんの傾向を把握することにより、大きな問題もなく推移している。 そして、身体拘束に直接繋がるものだけでなく、スピーチロック等心理面での拘束についても QC テーマとして全職員で取り組んで利用者の権利擁護に努めている。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアの重要性を正しく理解して、職員の指導をしています。平成30年度4月から身体拘束等適正化検討対策協議(身体拘束廃止委員会)が発足しています。協議の内容については運営推進会議でも報告しています。職員は内部・外部の研修会に参加しています。管理者とマネージャー(管理職)は、日常支援の中での言葉づかいについて、「声かけシート」を活用するなどして、特に重点を置いて指導に取り組んでいます。ホーム内やエレベーターに鍵をかけない、利用者の自由な暮らしを実現しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が各種の高齢者虐待防止関連法研修会にて虐待に関する法律や具体例について学んでいる。社内研修を実施すると共に、職員相互にスピーチロック等、言葉遣いも含めて注意を払っている。また、地域包括センターの方々と、実例についても話し合っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種の研修会にて制度、防止方法を学んで、QC会議等を通じて、全職員に研修を行なっている。入居者の中に数名、後見人や安心サポートを利用されており、その方々とも一緒に相談しながら生活を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を、書面と口頭補足により具体的に説明している。疑問点等は詳しく説明させていただいた後に、同意の署名・捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんに寄り添い、傾聴することにより、意見・要望等を把握する事に努めており、ケースに応じては月例QC会議にて取り上げ、情報共有している。そして、利用者さんと個別に、現在の想いや、今後の自身の姿を考え語って頂く機会を設け、それらを介護計画に反映させている。 玄関にはご意見箱を設置しており、いつでも気軽に意見を戴ける様にしている。ご家族来訪時には管理者より近況報告等行うと共に、要望等もうかがっている。また、ご多用のご家族とは、メールにて相談等の対応を行っている。	ユニット玄関入口に意見箱を用意しています。家族は意見や要望があれば面会時に直接職員に伝えられる関係にあります。また、利用者・家族の代表は運営推進会議に参加して意見や要望を出しています。メールで相談をする家族もいます。認知症があっても仕事に出かけている利用者もいます。管理者・職員がご家族と共に、利用者や仕事先と調整をして、利用者の思いや家族の意見・希望を反映させ実践していることは高く評価できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常勤職員全員で開催される月例QC会議では、自由に意見・提案が行われている。それにより、情報共有・問題点の抽出・改善決定・実施とケアの向上に繋がっている。マネージャー職員は、職員達の日常的なケアの悩みを現場任せにしないで、個別に話す機会を設け、一緒に考え円滑な現場運営に繋がっている。</p>	<p>職員は、毎月行われている月例QC会議で、業務上のことについて意見や提案ができます。職員間は自由に意見を表出できる雰囲気があります。管理者は、職員それぞれの生活状況や希望に配慮した勤務表を作成する等して、働きやすい環境づくりに努めています。また、マネージャー(管理職)職員は会議録や声かけシート等の上段に「悩んだときは安全の選択をすること、一人で悩まないでマネージャーに相談すること」と職員にむけたメッセージを記載するなどして、職員の声を吸い上げる工夫をしています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、各職員の努力や能力をよく理解するため常々現場に参画しており、個々の特徴を活かせる勤務体制を敷いて仕事を分担・評価するようにし、ステップアップ作りを図っている。QC活動はじめ、研修会等への参加も含め向上に繋がる機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修では、常勤職員には認知症実践者研修受講が必須研修として位置付けられている。 社内では月例 QC 会議において、「認知症専門ケア協議」を適時実施、職員の認知症ケアの向上を図っている。 介護キャリア段位制度のアセッサー2名も擁し、職員へ模範運営見学研修等を通じてソフト面も含めての技術指導を定期的に行っている。 マネージャー職員には、月例マネージャー研修にて、組織運営方法、職員指導方法の研修を行い、一般職員のレベルアップに繋げている。「ワークショップ研修」では、イレギュラー時の対応方法の演習を行っている。また、外部講師による管理職マネジメント研修を実施し、介護専門スキル以外の能力開発にも取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>(公社)日本認知症グループホーム協会(本部委員、大阪府支部役員就任)に加盟、グループホーム同士での勉強会等研鑽に努めている。</p> <p>住吉区事業者連絡会(役員就任)にも加盟、居宅・施設事業者との情報交換を行っている。各会には職員も参加し、意見交換やネットワーク作りを行うとともに、研究発表も行い資質向上の場にもしている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用相談の電話や見学の際には、お困りのことをうかがうと共に、面接には情報収集とご本人との信頼関係作りのためにご自宅訪問を行なっている。</p> <p>また、入所初期は新しい生活や他者との関係に対する不安軽減のため、ご家族も交えて話し合う機会を設けている。その後も継続して日常会話からも情報収集を行ない、利用者が安心して生活出来る様に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用相談の電話や見学の際には、お困りのことをうかがうと共に、利用者の生活歴やライフスタイルを聞き取っている。それを基に介護計画作成を行ない、ご家族のご理解を得てから生活を始めていただいている。特に入所1ヶ月は、ご家族に頻繁に連絡・相談を行い、不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用相談の電話や見学の際には、現在お困りのこと、現時点のご家族の状況を窺い、ご本人とご家族に必要とされるサービス(グループホーム以外も含めて)のアドバイスを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の理念の下、一人ひとりの個性と能力を尊重しながら、手を出し過ぎない介護を基本としている。日常生活では、掃除・調理・洗濯等を一緒に行い、ご本人の出来ること、出来る方法を見出す様に努めている。そして、出来ない事のみお手伝いし、入居者さんと共にお互いの存在を認め合いながら共同生活の仲間となっている。家事においては、職員も教わる事も多く家庭的な雰囲気が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族には面会時の散歩や美容院・病院等の付き添いや、衣替え時のタンスの入れ替えを一緒に行って頂き、ご本人の状況の理解と支援をお願いしている。懇親会にもご参加いただき、一緒にホーム生活を楽しんでいただいている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話や手紙での交流は勿論、面会・外出等は自由なので、馴染みの方の面会が頻繁な方々もおられる。入居前からの「ナレーションの仕事」に毎週出かけている方もおられ、そのために、原稿のメール取次や送迎等、ご家族・仕事先・あいむが連携して支援を行なっている。 また、ご友人と定期的に観劇・コンサート・温泉等に出かけられる方もおられる。</p>	<p>利用者は、入居前に利用していた近隣にある馴染みの美容院や医療機関に出かけています。笑いヨガ教室、観劇、コンサートに家族と出かけたり、自宅に外泊をしたり、墓参りや温泉に出かける利用者もいます。携帯電話を持参している利用者もいます。管理者・職員は、馴染みの人や場所との関係が途切れることがないような支援に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>「共同生活」だからこそできる「認知症介護」を実践している。入居者は勿論、共用デイ利用者も含めて、一人一人が力を発揮出来る様に支援方法を工夫しており、利用者同士は自然と助け合う関係ができています。また、利用者同士の相性に応じて、座席配置等にも配慮し、コミュニケーションが円滑に図れるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も退去先施設等に必要に応じて訪問し、ご本人・担当者と意見交換を行い、関係を断たない取組に努めている。ご家族様からの相談等もあり、入居時と変わらぬ支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後も利用者アセスメントを定期的 に実施。入居数カ月後や心身の状況 が変化した際を中心に、ご本に「現在 の想いや、今後の生き方」をお聴きし ている。情報不足の場合には、ご家族 からの情報を加味して、その思いを反 映した介護計画を作成している。 重度化された方には、QOL の向上に 繋げるように努めている。	計画作成担当者は、入居時に利用者・ 家族から一人ひとりの思いや意向を聞 き取り、介護計画に活かしています。 入居後は、利用者一人ひとりの介護マ ニュアル、簡易マニュアル、申し送り・ 介護日誌等に個別支援記録を丁寧に 残すことで、利用者一人ひとりの思い を汲み取るようにしています。管理者・ 職員は、利用者の思いや意向に更に 沿えるよう、普段の会話からも思いを 汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用 の経過等の把握に努めている	アセスメントでは自宅にお伺いして実 際の生活状況を把握して、介護計画を 作成している。また、出来るだけ居室 環境に変化を生じさせない様に、家具 等のお持込選定や設置場所の助言を させていただく様に努めている。これま でのサービス内容について担当ケアマ ネより情報収集する共に、日々のケア の中での会話等からの情報を踏まえ た上で、本人の活動意欲を引き出す様 に介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握、特に精神面の変動に注意して、その人のペースに合った生活づくりを支援している。月例QC会議にて職員相互の情報を基に、入居者一人一人の現状や有する能力をモニタリングして、出来る限りご本人に適した自立生活を送って頂ける様に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に入居者・ご家族の希望をよくうかがうと共に、グループホームの理念もよくご説明して、ご本人の人生に配慮した計画を作成している。 身体状況その他の変化について、月例QC会議においての変化状況協議を中心に、職員の日々の寄り添いからの希望、気づき等も活かして、モニタリングと介護変更計画を作成している。また、大きな変化が見られない場合においても、3～6ヶ月に一度程度の見直しを行っている。作成した介護計画は、ご来所時等にご家族に説明し、同意を得ている。	介護計画は原則6か月毎に、また状態の変化がある場合はその都度、見直しを行っています。月例 QC 会議では常勤介護職員が中心となって、医師・看護師からの情報やアドバイスを基にカンファレンス～モニタリングを行なっています。計画作成担当者は、それを基にご本人とご家族の意向を総合して介護計画の見直しにつなげていきます。作成した介護計画は利用者・家族に説明し、同意を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を行いやすい様に工夫された利用者別記録用紙にて、日々の様子やケアの実践、気づき等を記録している。個別ケア記録は介護職員全員が目を通して伝達、実践に活用し、介護計画の見直しに役立てている。最新介護方法が一目で判る簡易マニュアルを活用して、利用者の変化に適切に対応できる様に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居利用者のご家族への対応はこれまで行ってきたが、「サービスの多機能化」への取り組みとして、共用型デイサービス、空床活用のショートステイに加えて、平成30年からは、定員+1のショートステイに取り組み始めた。その中で、在宅で暮らすご利用者のご家族の様々なニーズに対し、「認知症専門ケア」「24時間365日稼働」とグループホームのもつ力を、広く地域に活用していただけるように努めている。また、区内訪問介護事業所職員の方々に、出前認知症研修を行うことにより、間接的に在宅認知症利用者の支援に繋げるべく取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者のニーズがきっかけで行われるようになった、「利用者だけの自由外出や買い物」は、利用者の能力・可能性、地域資源の把握、モニタリングによるリスクマネジメントを行いながら継続しています。2015年からの早朝ラジオ体操(近隣公園で住民主催に参加)は、現在、帰路に喫茶店でモーニング朝食を楽しむ日も加わり発展しています。このモーニングも利用者の希望に応えるために始まったことです。 その他、町内清掃活動は入居者を中心に活動を継続しており、町内会の方々のご推挙により「美化活動感謝状」を区長よりいただきました。 また、地域住民が主催している「認知症カフェ」のお手伝いに、入居者の方だけで参加されるなど、地域資源との協働に日々取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時に通院や投薬、医療連携体制について十分説明し、それぞれのご希望に応じている。また、体調低下が認められる利用者には、前もって近隣総合病院にて受診していただき、急変の際の入院等に備え、複数の医療機関と支援体制を結んでいる。</p>	<p>利用者は入居時にホームの医療体制、通院、投薬の仕方等説明を受け、ホームはそれぞれの意向に添った適切な医療が受けられるよう支援しています。ほとんどの利用者は協力医療機関を主治医としています。月1回の訪問診療、週1回の訪問看護により利用者の日常的な健康管理が行われています。歯科医師による訪問診療は、希望により適時行なわれています。また、近隣の歯科医院を利用される利用者もいます。従来のかかりつけ医に継続して受診する人もいます。受診の際は家族同行を基本にしていますが、職員が付き添うこともあります。利用者の様々な状況に備えて、複数の医療機関と連携をしています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師による健康管理や、その他医療機関の協力を得て、心身の変化に対する介護方法を指導いただいている。看護師より主治医に状況を報告し、次回往診の際の診療に役立てている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>体調低下が認められる利用者には、前もって近隣総合病院にて受診していただき、急変の際の入院等に備え、複数の医療機関と支援体制を結んでいる。入院時には管理者等がお見舞いと相談に度々赴き、現在の状態と退院後の対応について相談している。長期入院によるダメージを避けるため、担当医にはホームで可能ならば出来るだけの早期退院を前提に相談している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りに関する指針の説明を行なっている。重度化した方には、本人の意向やご家族の意向をうかがいながら、主治医や看護師、職員の意見を交え話し合いの機会をもって、状態に応じた支援に努めている。 看取りについては、看護体制や主治医支援力、スタッフの力量や夜勤時の体制強化等を検討した上で行っている。また、その際には他の利用者の生活への影響にも配慮している。</p>	<p>利用者・家族に対して入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」の説明を丁寧に行っています。重度化した場合には、本人・家族の意向に添いながら主治医・看護師・職員でよく話し合う機会を持ち、状況に応じた支援を行っています。 これまでにも看取りをした事例があります。「利用者がひとりの人間として最期を迎える支援を」という家族の希望もあり、主治医の指導、指示を得ながら、看護師、スタッフも交えて何度も話し合いをし、ホーム側の体制も整え、家族の協力を得て行っています。 今後も利用者の状況に沿った支援に取り組む予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当・感染症対策・事故発生時対応、等各種マニュアルを作成、整備している。管理者より応急手当等の指導を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者(選任届済)が訓練計画を作成、消防署の立会い、ご指導の下に、利用者さん全員参加で、通報・消火・避難訓練を、町内会の方々にも参加・協力いただいて年に2回実施している。地震・津波への災害時訓練として、「大阪 880 万人訓練」を実施している。運営推進会議時には、町会長とともに地域防災について話し合っている。食料、飲料水、衛生品等の備蓄も行なっている。</p>	<p>年に2回、毎回綿密な訓練計画を立て、災害時避難訓練を行っています。1回は消防署立会いの下に、利用者全員が参加して、職員とともに通報・消火・避難訓練を町内会の方々の参加も得て実施しています。また「大阪 880 万人訓練」に合わせて、地震・津波・大雨などに対する災害避難訓練を実施しています。利用者が安全に避難できるよう、夜間はもちろん、利用者の様々な場面を想定し、訓練を行っています。細かなマニュアルを作成し、すべての職員がそれを共有し確認しています。さらに緊急時にはこのホームを地域の一時的な避難場所として開放できるかということも検討しています。倉庫には、水、食料品、日用品などを備蓄しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの表情やペースを理解、尊重して、介助が必要な場合であっても、本人の自尊心を損ねず安心感が得られる様にしている。その方にあった声掛けシートを作成し、職員の情報共有と穏やかな空間づくり為の声かけに努めている。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの人格、誇りやプライバシーを損ねることがないように努めています。利用者一人ひとりの表情やペースを理解し、介助が必要な場合もゆったりと、落ち着いて安心して行動できるよう、声かけの仕方にも注意しています。対応が難しい状態にある利用者には「〇〇氏対応声かけシート」を作成し、それを利用することで利用者のおだやかな意思疎通が図られています。こうした努力で利用者の自立支援に繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>共同生活において自発的な参画に繋がる接し方を、QC活動を通して職員全体で取り組み、利用者が自らの意思決定で行動して頂ける様な支援を行なっている。自発的な発言や積極的な活動の増加が見られ、「自ら生き抜く幸せの場」となりつつある。 具体例として、「利用者希望昼食メニュー」「利用者だけの自由外出や買い物」「早朝ラジオ体操」「自室の清掃」「自分たちの好みのおやつ購入」「喫茶店モーニングサービス」「認知症カフェへの参加」等が挙げられる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の方が培ってこられた暮らし(普通の生活)を取り戻すために、ご本人の希望に沿ったあいむ内での生活と活動に加えて、屋外活動についても、各人の心身の状況、遂行能力を確認した上で、出来るだけ本人の生活ペースを大切に、その人らしい暮らしを取り戻せる様に支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>理容、美容は、本人やご家族と、地域の馴染みのお店に行って頂く様に支援している。服装等については、気温等に配慮して薦めているが、本人の嗜好や生活習慣を尊重している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は三食共に施設内にて手作りしており、生鮮品は近隣の八百屋さんやスーパーへ入居者の方と一緒に毎日買出しに行き、入居者さんにも一緒に選んでもらうことも心掛けている。調理・盛付・配膳・洗い物・片付け等は、入居者さんの能力に応じて行える様に、作業内容を細分化し、出来るだけみんなで行なえるようにしている。勿論職員も、みんなの輪の中に入って一緒に行っている。入居者さんが話し合っで献立作成する日、利用者さんだけで調理する日、みんなで鍋物や鉄板焼きをゆっくり囲む日等、バラエティーに富んだ食事形態を楽しむ様にしている。昼食は、職員も一緒にテーブルにていただき、食べ終わっても、お茶を飲みながら団欒を楽しむ機会としている。</p>	<p>食事はホームの大きな特色の一つです。3食ともホーム内で調理しており、ほぼすべての利用者がいろいろな場面に関わっています。調理担当職員の支援の下で、毎朝利用者のネギやもやしといった生鮮食品の買い出しに始まり、調理では様々な役割を持ち、豆の筋を取る人、皮をむく人、包丁を使う人、つぶす人、混ぜる人などにぎやかに職員と一緒にキッチンの仕事をしています。料理が出来上がると盛り付け、配膳です。食事中は職員も同じテーブルについて食し、見守り、さりげなく介護も行っています。食べ終わると一緒にお茶を一杯飲みます。食後の食器洗い、食器拭き、片付け、床拭きなども各自受け持つ仕事を職員と一緒にしています。利用者の意向や能力も考慮し、作業内容が細かく仕分けされたマニュアルが作成され、職員は共有しています。食事中は、あえてTVやBGMは消して、食事に集中できる環境と団欒の場として、ゆったりとした和やかで楽し気な食事風景が繰り広げられています。</p> <p>献立は調理担当職員が基本的に2週間単位で、利用者の好み、旬のもの、バランスなどを考慮しつつ、立てています。その中において利用者だけで献立を考える日、利用者だけで買い出しから調理までする自主昼食調理日、あるいは鍋物の日、鉄板焼きの日など、変化にとんだ食生活を提供しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さん方の健康への配慮を基本に、嗜好も加味して、バランスよくメニューを作成している。体格や食べる量に応じてお茶碗のサイズを変えるなど個別対応を心がけると共に、主治医の指導の下、栄養過多にも配慮している。食事・水分摂取量については季節に応じた分量に注意し、業務日誌に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前・外出後のうがい、毎食後の歯磨きや口腔ケアを、利用者さん全員に励行していただき、夜間には入れ歯洗浄を行っており、感染症予防と健康維持に繋がっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを尊重しながら、失敗を減らせるように、プライバシーに配慮した声掛け支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄リズムや習慣を把握して、さり気なくトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。排泄チェック表は作成していますが、利用者の体調により記入が必要な方のみ細やかな記録に残しています。職員はプライバシーに配慮しながら利用者一人ひとりに応じた声かけを行って、排泄の自立に向けた支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>介護職員は認知症周辺症状と便秘の因果関係を理解しており、食事・水分摂取量の把握と水分摂取促し・運動不足に対する声掛け等を行っている。排便状況・便秘日数は業務日誌に記入されている。訪問看護師による腹満チェックも行なっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人のご希望と体調などを考慮して、自立支援に沿った個々の方に合った入浴をして頂いている。高齢で持病のある方には、特に入浴時間や温度管理などに配慮している。</p>	<p>入浴は週2～3回を基本としていますが、利用者の体調や希望に沿った入浴支援を行っています。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯等楽しんでいます。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけに工夫をしながら本人が入浴する気持ちになるように働きかけています。全利用者に対し同性介助を行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している</p>	<p>個人別ケース記録に夜間の睡眠 状況と日中の居眠り等も記入し ており、生活リズムに配慮して 夜間の安眠を支援している。ま た、利用者の精神的不安内容に ついては原因の把握と対応を職 員が情報共有することにより、 落ち着きのある生活環境の提 供に努めている。2017年より 「シルエットセンサー」(AI見 守りロボット)を導入して、的 確な訪室で安全確保に活用。転 倒リスクの高い方、新規入居者 の方に、ご本人・ご家族の同意 の下に使用して、安全確保と安 眠支援に繋げている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる</p>	<p>利用者別に処方薬の内容・服薬 方法・副作用を一覧にまとめて ファイルし、薬と一緒に配置し ている。一覧は調剤薬局により 処方毎に発行、最新投薬内容が 判るようになっており、症状の 変化に対応している。 一包化袋、投薬箱、臨時薬ファ イル、服薬完了守り等、投薬誤 りの無い様にシステム整備して いる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人一人の生活歴と能力に応じて、家事作業における役割作りを心掛けています。ご自分の居室は出来る範囲内で自らが清掃出来る様に、数種類の掃除用具を揃えて、自立支援に繋げている。想いの聞き取りを通じて、本人の活動意欲を引き出す様に支援している。共同作業時間外は各々が楽しみごとをされており、創作活動として塗り絵をされたり、手芸では活動意欲に溢れた作品を作っておられます。</p> <p>また、気分転換の場として、数名の利用者で外食を楽しまれることもある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎朝の買出しや外周掃除・散水等には、交代で参加していただいて、杖歩行や押し車の方にも、外出の機会を確保できる様に配慮している。自分達だけの自由外出として、単独、複数名での買い物や散歩等は、息抜きであるとともに、町内の方々との交流の場もあり、地域の中で「ふつう」に暮らす姿として定着している。</p>	<p>利用者の能力、体調や希望に合わせて、毎日の食材購入、散歩、早朝のラジオ体操、ホーム周辺の掃除、散水等を、独歩利用者のみならず、押し車利用の方も含めて行なっています。午後の買い物や散歩は利用者同士のみで自由に出かけて、町内の方々との交流を深め、地域で普通に暮らす利用者の姿が住民の中に定着しています。季節を楽しむ外出として初詣、花見、寺院のお参り、夏祭り、忘年会等があり、時として家族も参加して楽しんでいます。家族等と少人数での外食にも出かけます。ホームではできる限りどの利用者も外出の機会を確保できるように配慮しています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者別に適切な金額を把握して、本人が所持、支出管理してお金を所持することによる安心感を得ていただいている。自己管理が困難な方にも、買い物の支払い時にお金をお渡ししてご自分で払っていただくなど、買い物を楽しんでいただける様に支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	外線電話や手紙等のやりとりも支援しており、宛名書き等は必要に応じてお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はエリア毎に分割されており、全体的に落ち着きを保てる設計・環境である。生活の場であるリビングは広く開放感があり、かつ落ち着ける場となっている。リビングへの採光は申し分なく明るく、また間接光が採り入れられるように、和室には障子が施されている。リビングの蛍光灯には「ウォーム色」を採用し、心が落ち着きやすいようにしている。日めくりや季節の習字作品をさりげなく飾って、季節や暦が判る様にしている。	共用空間はどこも広くて明るくゆったりとしています。広いリビングは落ち着いた雰囲気の中、食事や利用者同士の憩いの場となっています。リビングには2か所の流し台が設置され、大きな食器棚があります。食事の準備や後片付け等、日々の生活の場として利用者が自由に動きやすいよう工夫されています。フロア毎に和室の茶の間も用意され、利用者同士が寛げる場となっています。またフロアのコーナーにはソファや椅子が置かれ、利用者同士で、もしくは一人になってゆっくりと過ごす空間が用意されています。トイレや風呂は車いすでも動きやすい広さです。ホームでは今後、利用者一人ひとりの希望に沿った「共用空間における一人ひとりの居場所づくり」について職員間で話し合い、取り組んでいきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隣には障子で囲まれた茶の間、その横には大・小のソファ、テーブルセット、そしてマッサージチェアが配置しており、気の合った利用者同士での語らいに、一人でちょっと昼寝にと各人の時間を過ごせる居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、使い慣れた家具、生活用品、家族の写真等をお持ち頂く様にご案内し、今までの環境に近いお部屋にいただいている。仏壇を置かれていた方は1/3程おられる。窓には障子を施し、間接光により安らげる環境にしている。	居室入口には自分の部屋がわかりやすい様に木製の表札が掛けられています。居室の中は障子戸から柔らかい光が差し込み、外の景色も楽しめて部屋全体が落ち着いた雰囲気です。居室には使い慣れた家具や仏壇が置かれ、家族写真や折り紙、人形が飾られている部屋もあります。中にはパソコンや三味線がある部屋もあります。各利用者は自分の好みに合わせてゆったりと落ち着いて過ごしています。利用者の状況によっては、家族の同意を得てAI機器(見守り支援介護ロボット)を設置して安心安全を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には木製表札を大きな漢字と振り仮名で示し、判り易いようにしている。トイレの扉は他の扉と色を変え判別し易い様にすると共に、大きな紙に「便所」と記して貼り示している。</p> <p>施設内はバリアフリー設計で、手すりは木製で握り易い様に工夫されている。浴槽や椅子等の高さも約40cmと座位のとり易い高さに配慮している。居室の床はクッションフロアにして、転倒の際の衝撃緩和と安全性向上に努めている。</p>		